

東京都

中型野生獣 被害防止 マニュアル



はじめに

東京都内では、近年、区部などの都市部においても、アライグマ、ハクビシン等の中型野生獣による農作物被害が深刻化しています。

中型野生獣が定着する主な条件は、食べ物と休息場所が揃っていることです。中型野生獣は適応力が高く、都市部でも容易に生息地を見つけることができるため、個人だけではなく地域ぐるみの対策が重要です。地域全体で協力して実践することで、より広範囲にわたる効果的な対策が可能となり、被害低減に繋がります。

本マニュアルは、中型野生獣の行動特性や特徴を示し、農業者が実践できる具体的な対策を普及することを目的としています。

地域全体で協力し、農作物を守りましょう。

令和7年3月

東京都 産業労働局 農林水産部 食料安全課

目次

はじめに・目次	P.01
1 東京の被害の現状	P.02
2 中型野生獣の特徴と被害	P.03
3 被害対策	P.11
4 失敗事例から学ぶ注意点	P.20

※本マニュアルは中型獣を対象としています。シカやサルなどによる被害対策は掲載されていないのでご注意ください。



1 東京の被害の現状



今回マニュアルの対象としたアライグマ、ハクビシン等の中型野生獣は都市近郊にも多く生息していて、雑食性であることや空き家など休息場所の増加などで急速に生育数を増やしています。そのため農作物被害も増大しています。

東京都における野生鳥獣による農作物の被害について、令和4年度における被害面積は12haで、うちアライグマ、ハクビシンの被害は3haとなっています。

令和4年度の被害金額は鳥獣合計で7,645万円、アライグマ、ハクビシンの被害額は2,092万円となっています。

特に、区部や南多摩地域のブドウなどの果樹やスイートコーンなどの果菜類ではハクビシンの被害が大きく、西多摩地域では、果菜類や養鶏場の採卵鶏などにアライグマの被害が発生しています。



ブドウの被害の写真



トウモロコシの被害の写真

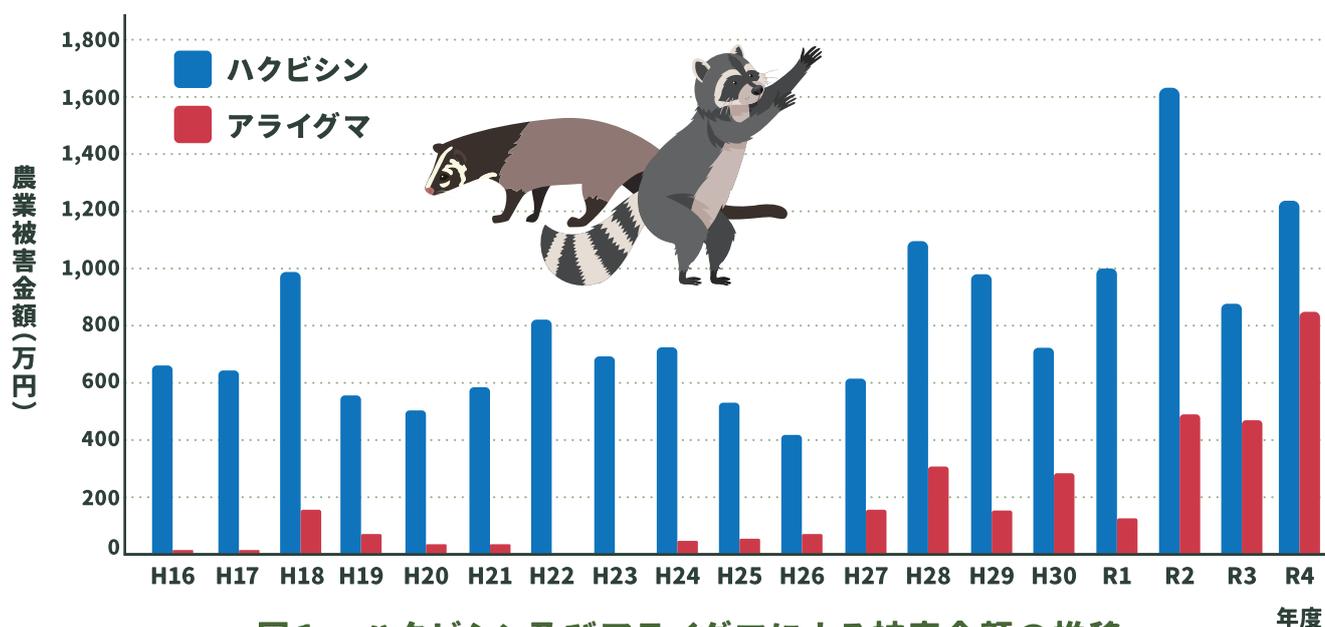


図1 ハクビシン及びアライグマによる被害金額の推移

2 中型野生獣の特徴と被害

① ハクビシン Masked palm civet



種属 食肉属ジャコウネコ科ハクビシン属

特徴 頭胴長:50cm前後/尾長:50cm前後/体重:3~4kg

- 鼻筋に白い帯があり、目の下と頬に白い斑がめだつ。目が大きく、吻は長い。
- 指は5本で、爪跡は不明。

生息場所

東南アジア、中国南東部、台湾などに広く自然分布しており、日本には外来種として持ち込まれた動物である。現在では青森県以南の東北地方から中国地方の一部地域、四国全域での分布が確認されており、市街地でも目撃されている。東京都でも23区のほぼ全域に分布している。



生態

- 基本的には単独もしくは母子で活動しており、活動時間帯は夜間に偏っている。
- 行動する範囲は30~70ha程で、オスの方がメスよりも広い範囲で行動する。
- 樹洞や家屋の天井裏などをねぐらや出産・子育ての場として利用し、家屋を利用する際に発生する騒音(足音や子の鳴き声)や排泄物による汚染などが家屋侵入被害として報告されている。
- 木登りなどの立体的な移動能力に長けており、長い尻尾でバランスを取りながら足場の悪いところや不安定な場所でも移動できる。交通量が多い都市環境下では、電線の上など空中に張り巡らされた構造物を使うことで安全に生活を送れる。ハクビシンは頭が入れば狭い隙間を通り抜けることができるが、自ら穴を掘ることはしない。
- 繁殖期は1月~9月、出産期は3月~11月と推定されている。妊娠期間は約2ヵ月で、1度に1~4頭が生まれる。



被害の特徴

東京都では令和4年度の被害面積は293a、被害額は1,241万円となっており、被害発生地域の多くは多摩地域である。

ハクビシンは主に果実類を中心に採食するが、昆虫類や小型齧歯類げっしるいなども食べる雑食性である。農作物では特に果実の被害が多く、ブドウやナシ、ミカン、カキ、リンゴなどである。また、トウモロコシやスイカ、イチゴ、トマトなどにも被害が発生している。ビルなどが立ち並ぶ市街地でも、ギンナンなどの結実のある樹木や生ごみなど餌になるものがあれば生息可能である。

ハクビシンは立体的な運動能力に優れることから、果樹や果樹棚に登って食害する。体重が3～4kg程度であることから、果樹の枝が折れることは少なく、身軽に枝先まで移動できる。

ブドウやトマトなどの外皮が口に残るものは、器用に皮のみ吐き出す。ミカンやナシは枝先近くまで行き直接実を下部から食べるため、枝先に果実の上部が残る。トウモロコシでは、軸を登って器用に皮を剥き、実の部分を食べる。トウモロコシの粒の薄皮が軸に残った食痕になるため、子供が食べたように見える。



イチジクの被害



きれいに袋が剥かれたブドウの被害



トウモロコシの被害(倒れない)



ミカンの被害

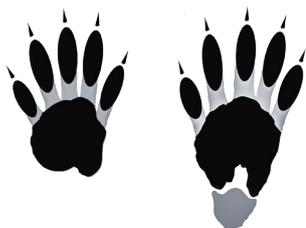
② アライグマ Raccoon



種属 食肉目アライグマ科アライグマ属

特徴 頭胴長:42~60cm / 尾長:25~30cm / 体重:4~10kg

- 尾は長く、リング状の模様がある。
- 眉毛に黒い筋があり、ヒゲは白く目立つ。
- 目の周りの黒いマスク模様が大きい。
- 耳は大きく白い縁取りが目立つ。
- 指は5本で長い先端に爪の跡が残ることが多い。



生息場所

日本には愛玩用として多く輸入されたが、一方で逃亡や放獣などにより、各地で野生化し、全国に拡大したとみられている。特定外来生物に指定されており、都内では、多摩地域を中心に増加を続けており、最近では区部における生息範囲の拡大がみられる。

生態

- 活動は夜間が中心だが昼間も活動する。
- 行動域の広さはえさの量によって決まり、年間を通じてえさが豊富にある場所であれば狭い範囲で生活できる。
- 移動は、主に用水路や側溝等の水際を使用する。
- 木登りを得意とし、本来は、休息や繁殖場所として木の樹洞やほら穴を利用するが、最近では、住宅の屋根裏にも住み着いている。
- 食性は雑食である。野菜や果樹などの農作物を好んで食べるが、小型の哺乳類や鳥類、魚、昆虫などもよく食べる。
- 繁殖力が非常に高い。繁殖期は春季で、4月中旬が出産のピークとなる。一度に3~5頭の子供を産む。



被害の特徴

東京都では、平成15年度に初めて被害が報告され、平成18年度に急増したが、その後は減少した。しかし、平成27年度以降は再び増加傾向である。令和4年度の被害面積は141a、被害額は851万円となっており、被害発生地域の多くは多摩地域である。

また、果樹や野菜などの農作物被害が大きく、指が長く器用な前肢でスイカなどの皮に小さな穴を開けて液果だけをすくいだすほか、トウモロコシの皮をむくなどの被害が深刻である。その他、牧草のロールの破壊、乳牛の乳頭を噛み切る、ニワトリを食害するなどの畜産業被害もある。



前肢でくりぬかれたスイカ被害



前肢で袋を裂き、
ブドウの果実を食い荒らされた被害



前肢できれいに皮をむいて
食べられたトウモロコシ被害



ブドウの支柱を登ろうとする
アライグマ

③ タヌキ Raccoon dog



種属 食肉属イヌ科タヌキ属

特徴 頭胴長:50cm前後 / 尾長:15cm程度 / 体重:4kg

- ずんぐりとした体形で、体毛は茶色や灰色だが、目の周辺と足、尾の先端は黒い。



生息場所

生息場所は山林から都市郊外までと幅広い。

生態

- ハクビシンほどの運動能力はないが、木登りや1m程度のジャンプ、水泳等、大体の運動はできる。
- 基本的に夜行性だが、昼間にも行動する。単独でも家族単位の群れでも行動する。
- 繁殖時期は年1回、5～7月頃に雌1頭当たり4～6頭の子を産む。生まれた子は1年以内に繁殖能力を得る。
- 「ため糞」と言う同じ場所に繰り返し糞をする習性があり、周辺にタヌキがいるかどうかの判断材料になる。

被害の特徴

東京の令和4年度の被害面積は160a、被害額は634万円となっており、被害発生地域の多くは多摩地域である。

ブドウ、ミカン、イチゴ、トウモロコシ、スイカ等の被害が多い。トウモロコシやイチゴは半分だけかじり、スイカはバラバラにすることが多い。灌水チューブをかじられる被害はタヌキによるものが多い。柵内には穴を掘る、隙間に潜る等して侵入する傾向がある。



トウモロコシ被害

4 アナグマ Badger



種属 食肉目イタチ科アナグマ属

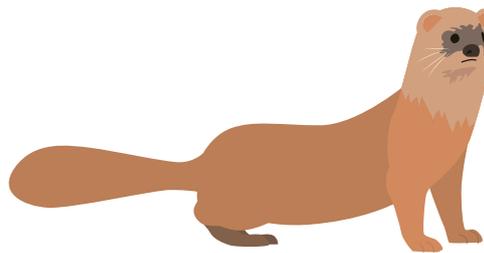
特徴 頭胴長:50cm前後/尾長:8cm程度

- 足は太く短く、爪は長い。毛色は薄い茶色で、目の周辺は黒い。

生態 昼夜ともに行動し、雑木林や藪林、家屋にも住み着く。春に雌は2~4頭の子を産む。足とあごの力が強く、通風孔等の前に物を置いてもどかして入り込み、化学繊維を噛み切る。木登りは得意ではない。

被害の特徴 雑食性で昆虫やカエル、モグラ、ミミズ等動物質の方を好むが、トウモロコシ、スイカ、イチゴ、ブドウ、トマト等も食害する。

5 イタチ Weasel



種属 食肉目イタチ科イタチ属

特徴 頭胴長:雄27~37cm、雌19~25cm/
体重:雄400~500g、雌145~200g

- 雌雄で体格が大きく異なることが特徴。

生態 日本固有種で、平地から山地まで広く分布し、河川敷などの水辺に好んで生息する。現在は西多摩地域と南多摩地域に多く生息し、区部や北多摩地域の一部でも生息が確認されている。また、島しょ部にも生息しているが、伊豆大島以外の八丈島や三宅島の個体は、ネズミ対策として人為的に導入されたものである。

被害の特徴 養鶏場に侵入し鶏を襲うことがある。餌となるネズミが多いと農場にイタチが近寄りやすくなる。

6 テン Japanese Marten



夏毛



冬毛

種属 食肉目イタチ科テン属

特徴 頭胴長:40cm前後/尾長:20cm程度

- 雄の方が雌よりも体重が重く、雄が1.5 kg前後、雌は1kg前後である。夏毛は顔が黒く、冬毛は顔が白くなる。



生態

日本に生息するテンにはニホンテンとホンドテンの2亜種があり、東京に生息するのはホンドテンである。よじ登る能力が高く、太い木を垂直に登ったり、細い枝を渡ったり、木から木にジャンプしたりすることができる。そのため、繁殖用の巣穴や休息場所として、樹上の樹洞などを利用するが、中山間地域では家屋の屋根裏や物置を利用することがある。

被害の特徴

果実類、昆虫類、小型脊椎動物が主要な食物で季節に応じて食性を柔軟に変化させる。ブドウ、カキ、イチゴなどの食害や鶏舎への侵入によるニワトリや卵の被害が報告されている。

7 キツネ Fox



キツネの群れ(羽村市)



先端をかじりとられたスイートコーン

種属 食肉目イヌ科キツネ属

特徴 頭胴長:40~75cm/体重:3~7kg



生態

北海道を中心に農畜産物への被害が多い動物種であり、食性は動物食を中心とした雑食性である。主にノネズミ類、鳥類などの小型動物を捕食しているが、出生直後の子牛の鼻をかじる被害や、飼料の食害といった畜産業被害のほか、スイートコーン、ビート、葉茎菜類などの農作物への食害もある。

被害の特徴

スイートコーンでは、収穫間近の黄熟期に、先端部分のみをかじりとられる被害が発生する。個々の子実での採餌量は少なくとも、一部かじられることで子実全体を破棄せざるを得なくなり、被害量は多くなる。また、キツネによるスイートコーン被害は、黄熟期に限定されるため、8~9月に集中する。

見分け方

	アライグマ	ハクビシン	タヌキ	アナグマ
全身図・特徴	 <ul style="list-style-type: none"> ● 胴長60cm程度 ● 尾に黒い縞が5~7本ある 	 <ul style="list-style-type: none"> ● 胴長50~60cm程度 ● 尾が長い 	 <ul style="list-style-type: none"> ● 胴長45~55cm程度 ● 尾が太くふさふさ 	 <ul style="list-style-type: none"> ● 胴長50~60cm程度 ● 尾が短い
顔				
尻尾				
足跡	 <p>指は5本で爪は長く鋭い</p>	 <p>指は5本で爪跡は不明瞭</p>	 <p>指は4本で足跡は全体的に丸く、ネコのものに似ているが、爪跡は明瞭</p>	 <p>指は5本で爪が長い</p>
糞の特徴	 <ul style="list-style-type: none"> ● 糞をする場所は一定ではない ● 天井裏で見つかることがある 	 <ul style="list-style-type: none"> ● 天井裏やベランダの排水溝周辺で、ため糞が見つかることがある 	 <ul style="list-style-type: none"> ● 複数頭が同じ場所のため糞をするので、量が多い 	 <ul style="list-style-type: none"> ● 草の上や土の窪みに糞をする ● 黒っぽい色をしている
被害状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 雑食性であるが、動物質への依存度が高い ○ 被害が多い農産物は、果樹、トウモロコシ、スイカ、鶏 ○ 手先が器用で、スイカは円形の穴から中身がくりぬかれる。また、ブドウは袋が縦に裂かれるなど食べ跡が特徴的 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 雑食性 ○ 被害が多い農産物は、ブドウ、トウモロコシなど精度が高いもの ○ 被害にあったトウモロコシは茎が斜めに倒れ、粒がきれいに食べられている。また、ブドウの場合は袋が上から下向きに引き裂かれ、地面にブドウの皮が落ちている 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 雑食性 ○ 被害が多い農産物は、イモ類、マメ類、トウモロコシ、カキ ○ 木には登らないので、地面に近かったり、落下したりした果実を食べる ○ 食べ跡は汚い ○ 食害のほかにも、灌水用のゴムチューブやビニールハウスのマイカ線を噛みちぎるなどの被害がある 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 肉食性が強い雑食 ○ 被害が多い農産物は、イモ類、マメ類、カボチャ、トウモロコシ ○ 穴を掘るのが得意なので、柵などをしても、下から侵入する可能性がある

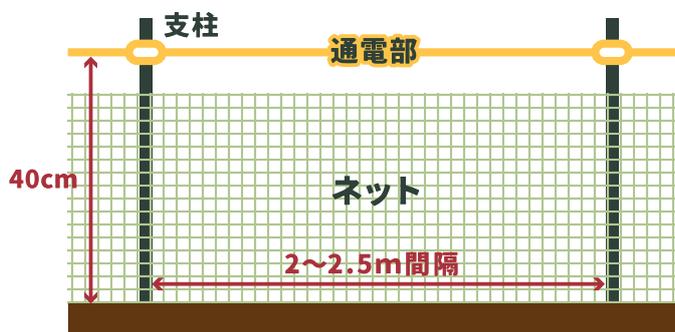
※顔・尻尾の写真は、千葉県立中央博物館から利用承諾を得て掲載



① 楽落くん方式の紹介

ハクビシン、アライグマ等の中型野生獣の対策には、古谷益朗先生(野生生物研究所ネイチャーステーション)が考案した「楽落(らくらく)くん方式」がおすすめです。これは、ネットと電気の複合柵で、収穫期のみ、しかも短時間で簡単に設置でき、高さも40cmと低いのでヒトは、またいで入れます。

楽落くん方式の柵にはネットの上部に電線が編み込まれた状態で購入できる「かたまったくん」など様々な資材があります。



楽落くん方式の構造



楽落くん方式の設置例

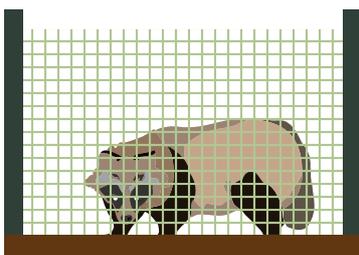
仕組み

楽落くん方式のポイントは、ネットの高さを地上から40cmに設定することです。写真では低く見えるかもしれませんが、この40cmという高さが重要で、中型野生獣に効果的です。

アライグマやハクビシンなどの中型野生獣が初めてこの楽落くん方式の柵を見た時、乗り越えられるかどうかを確認する探査行動により、通電部に鼻先が触れて感電する仕組みになっています。掘ることが得意なタヌキやアナグマの場合、ネットの高さを40cm以上にすると探査行動をせずにネットの下を掘ってしまいます。

POINT 高さ40cm

✗ 40cm以上
タヌキ・アナグマは掘り始める



✗ 40cm未満
低く飛び越える



○ 40cm
探査行動から感電する



設置方法一例(かたまったくんの場合)

支柱を2~2.5m間隔に並べネットを伸ばす



ネットに支柱を通す



ハンマーで支柱を打ちこむ



スプリングフックを装着



スカート部に土寄せをする(アンカーを打ち込む)



スタート地点に戻ったら接続金具でネットを繋ぐ



危険表示板をつける



電源ユニットを繋ぐ



設置後の注意点

- 電気が通っていない状態で動物が触れると、この柵は安全だと認識し、侵入してくる可能性が高くなるので、柵設置後、電源を入れたら撤去するまで電源を切らないでください。
- 中型野生獣の侵入を防ぐために、柵に穴や隙間がないかを定期的に確認してください。
- 電圧チェッカーで電圧が4,000V以上あるかを定期的に測定してください。

楽落くん方式の種類(一例)

地上部から高さ35cmまでの位置をネットで囲み、その上5cmに1本の電線を張ったネット+電線タイプのほかに、融着ネットタイプ等があります。どのタイプを使用する場合も、地上部から通電部の高さを40cmにすることがポイントです。



ネット+電線タイプ



融着ネットタイプ(かたまったくん)

② 楽落くん方式以外の獣害対策資材について

電気柵

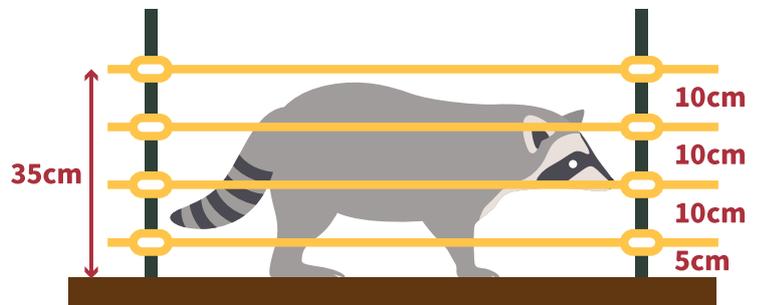
電線のみタイプ

この設置方法は、電気ワイヤーを4段程度に張り巡らせるもので、中型野生獣対策の場合、設置高さは35cm(地上から5cm・10cm・10cm・10cm)が推奨されています。

一番下の段が地上から5cmと低いため、地面の凸凹がワイヤーに触れたり、刈った雑草が生えてきて電気柵のワイヤーに触れてしまったりするなど、漏電のリスクがあります。こまめな草刈り、除草、テスターを用いた漏電チェックが必要です。



設置風景



設置高さ

電気ネットタイプ

電線がネットに平行して4本程度編み込まれており、野生獣がネットを登ろうとして電線に触れると感電します。アルミテープがセット販売されており、支柱に貼ることで、各電線に電気が流れます。ネットはポリエチレン製で柔らかく、設置作業の負担が少ないメリットがあります。ただし、ネット下部にも電線があり、雑草等が触れると漏電する恐れがあります。



電気ネットタイプ

電気柵以外の柵

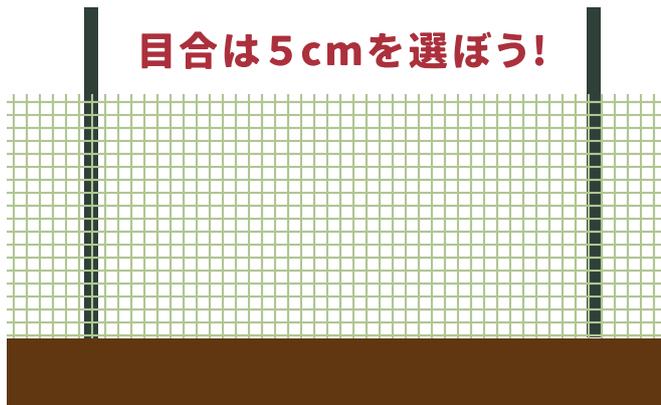
ワイヤーメッシュ柵(金網パネル)

幅2m程度の金網パネルを、専用の鉄パイプ型の支柱を使って設置します。設置も容易で、イノシシ対策で設置する例が多いです。登ることを得意とするアライグマ、ハクビシンにはワイヤーメッシュ柵のみでは効果がないため、電気柵と組み合わせて活用します。穴を掘って侵入する危険性があるため、トタン板の埋設など工夫も必要です。



ワイヤーメッシュ

目合は5cmを選ぼう!



ワイヤーメッシュ目合

トリカルネット

ポリエチレン製の角目ネットです。小動物の潜り込み・すり抜けを防止できます。安価で軽く、設置も楽ですが、アライグマ、ハクビシンには乗り越えが可能で、支柱やつなぎ目などから侵入される危険があります。耐久性は5年程度です。

その他の資材

効果的な対策方法を検討するためには、食害を起こしている獣の種類を特定することが重要です。センサーカメラは、被写界を被害区画に合わせ、三脚や樹木に固定し、赤外線により侵入した獣を撮影するカメラです。



センサーカメラ



センサーカメラで撮影されたハクビシン

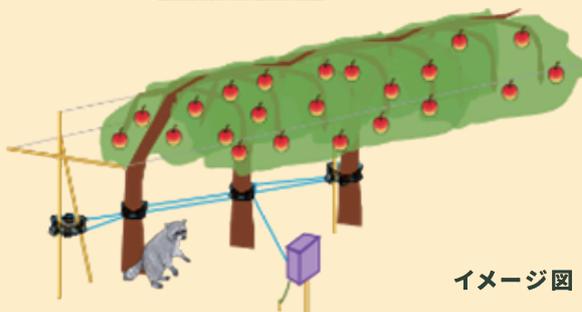
地面に電気柵を設置できない場合は？

電気柵を設置するスペースがない
果樹園での次善策

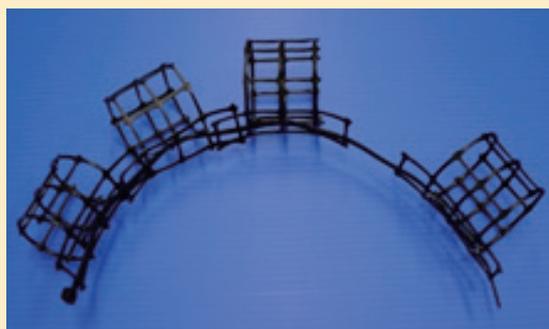
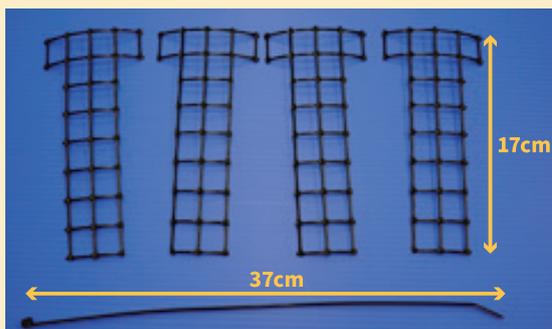
がいし

樹体碍子

本技術は、プラスチックネットと結束バンドで作った碍子を樹体に直接設置するものです。なお、園地を囲う通常の電気柵よりも侵入防止効果は下がります。また、碍子よりも低い位置にある果実は防ぐことができません。



イメージ図



T型に切ったプラスチックネット4個と結束バンド1本で最小サイズ(直径8cm程度の木に適合)を作成



部品を継ぎ足せば太い木にも
取り付けられる



木が細い場合でも、結束バンド1本
を追加すれば取り付けられる

みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業のうち農林水産研究の推進(委託プロジェクト研究)「省力的かつ経済的効果の高い野生鳥獣侵入防止技術の開発(令和2～6年度)」において、(国研)農研機構が開発した技術です。詳細は、(国研)農研機構畜産研究部門動物行動管理グループのWebサイトをご覧ください。

③ 環境整備

野生動物の餌場をなくす



圃場のごみ捨て場



放任果樹(カキ)の写真

被害を防ぐには、地域全体での環境整備が重要です。廃棄野菜や収穫残渣は放置せず、適切に処理しましょう。規格外の野菜や摘果した果実などは、人が食べなくても野生動物にとっては良いエサとなり、これが餌付けとなって地域に野生動物を誘引し、被害に繋がります。農地にそのまま捨てずに、穴に埋めるなどして野生動物が食べられない場所に廃棄しましょう。また、生ごみは収集日の朝に捨て、野生獣のエサとならないようにしましょう。

放任果樹の管理も大切です。カキやクリなどの放任果樹も野生動物のエサとなります。すべて収穫するか、伐採して対策しましょう。

このように、環境整備は個人での取り組みと地域ぐるみの対策が必要です。集落でエサになっているものを野生動物の視点で徹底的に探し出し、対策することで野生動物による被害を防ぎましょう。

野生動物のねぐらをなくす

中型野生獣による被害のある農地の近くには必ず「ねぐら」があります。

登るのが得意なアライグマやハクビシンは雨どいを使ったり、庭木の枝を伝ったりして器用に登り降りして侵入口へ近づきます。ハクビシンは、6cmの間隔があれば通ることができます。

上部は瓦屋根や増築した継ぎ目、床下は通風口からの侵入が多いです。対策する際は、樹脂ネットや薄い合板ではなく、家屋への侵入口を金網など丈夫な資材で塞ぎ、ねぐらをなくすことも農業被害対策として重要です。



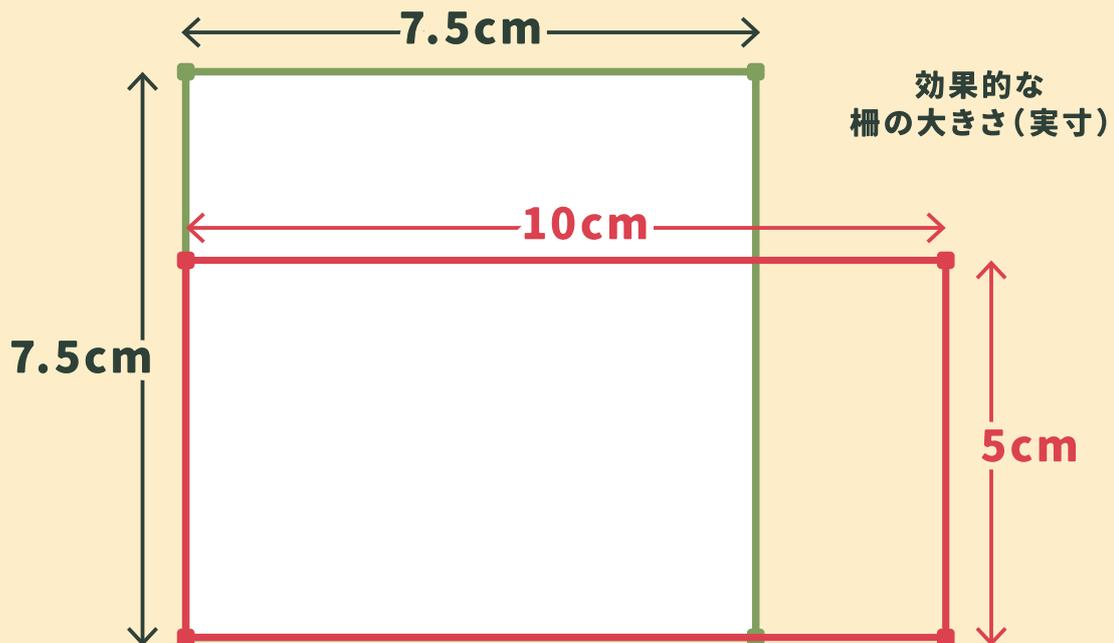
屋根裏の被害



天井のシミ(アライグマ)

POINT

農作物をワイヤーメッシュ柵等で多い対策・金網で家等のねぐら対策をする際は、**7.5cm×7.5cmより小さい正方形、縦5cm×横10cmより小さい長方形**のものを使用しましょう。



④ 箱罠捕獲

アライグマ、ハクビシン等の中型野生獣は繁殖能力が高く、生息地域が拡大しているため、早期の捕獲が効果的です。捕獲にあたり、対象動物の生活習性と特徴を理解することが重要です。被害現場には食害や足跡などの痕跡が残されており、これらの情報を基に加害獣や侵入経路を特定します。現地調査では、センサーカメラを使用して動物の行動を記録し、生息確認を行います。なお、捕獲には事前に手続きが必要です(P.19⑤「捕獲に関する関係法令」を参照)。

箱わなの種類

捕獲にはエサ吊り式と踏み板式の箱わながあり、エサ吊り式の方が捕獲率が高いとされています。



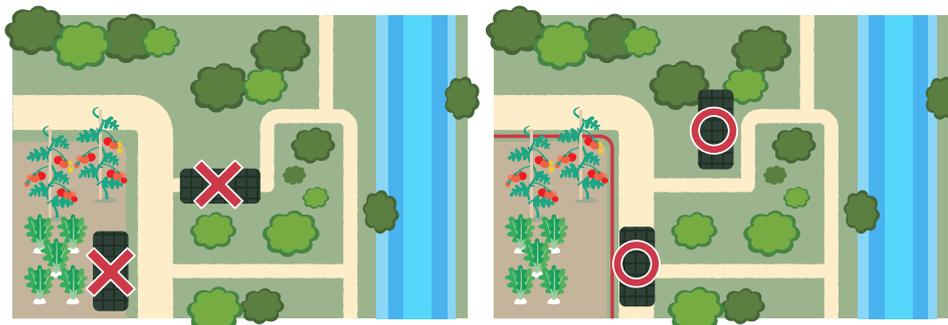
エサ吊り式



踏み板式

設置場所

箱わなは被害作物の周囲や家屋の侵入経路に沿って設置します。囲えない場所は下記のように獣道を探し、被害現場から離れたところに直角に設置しましょう。



畑に設置、けもの道に直接設置は×

畑に柵を設置、けもの道に直角に設置は○

エサの取り付け

エサは狙われた作物や、アライグマには取り付けやすい形の甘いスナック菓子、ハクビシンにはバナナが効果的です。踏板式の場合は、地上部付近にエサを取り付けると踏板が視界に入り、踏む確率が低くなるので奥の上部に固定しましょう。

視線を上にするためエサは奥の上部へ



捕獲後の処理

捕獲後は速やかにCO₂の使用等により安楽死処分を行います。加害獣であっても苦痛を与える殴打・水中に沈める等は禁止行為です。

野生動物は人にも感染する病原体を保有している可能性があります。作業をする際は、必ず手袋を着用し、糞尿・血液・唾液・鼻汁などに直接触れることがないように注意しましょう。

⑤ 捕獲に際しての関係法令

鳥獣の捕獲については、鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律(鳥獣保護管理法)で定められています。

鳥獣保護管理法における鳥獣の捕獲について

鳥獣(いえねずみ類、一部の海棲哺乳類を除く)の捕獲又は卵の採取は①登録狩猟(狩猟免許を持つ人が都道府県に登録し、行う狩猟)、②許可捕獲(都道府県知事の許可を得て、被害防止や研究のために行う捕獲)、③指定管理鳥獣捕獲等事業による場合を除き禁止されています。ただし、ネズミ・モグラ類については、農林業活動に伴って捕獲がやむを得ないと認められる場合は、許可を得なくても捕獲することができます。

狩猟鳥獣

狩猟鳥獣は鳥類26種、獣類20種の合計46種が定められています。獣類にはアライグマ、ハクビシン、タヌキ、イノシシ、シカなどが含まれます。東京都では、ニホンザルは狩猟鳥獣ではありませんが、許可捕獲で捕獲することができます。

狩猟免許

狩猟を行うためには、鳥獣保護管理法に基づき、住所地の都道府県知事が発行する狩猟免許の取得が必要です。狩猟免許には、法定猟法の種類に応じて網猟、わな猟、第一種銃猟、第二種銃猟の4種類があります。その他のかすみ網、とらばさみ、ボウガン、運行中の自動車の上から銃器を使用する方法等は禁止されています。

東京都の狩猟免許試験は年6回(令和7年度)あります。受験資格は試験の日に、満20歳(網猟及びわな猟は満18歳)以上の方、現に東京都内に住所地を有する方、法律で定められた欠格事由のいずれにも該当しない方等です。

	①登録狩猟	②許可捕獲
対象鳥獣の種類	狩猟鳥獣(ひなを除く)46種	すべての鳥獣及び卵
捕獲又は採取の事由	問わない	被害防止、学術研究、保護・管理(個体数調整など)
捕獲又は採取に当たっての個別の手続き	必要 (狩猟免許の取得 ・毎年 の猟期前 の 狩猟者登録)	必要 (捕獲許可申請)
捕獲者又は採取者の資格要件	<u>狩猟免許</u> ・ <u>狩猟者登録</u> を受けた者	原則として <u>狩猟免許</u> を受けた者
対象地域	鳥獣保護区や休猟区等の捕獲禁止の場所以外の地域であればどこでも可能	許可された範囲(鳥獣保護区も許可を受ければ可)
時期	狩猟期間(冬期)のみ ※東京都:11/15~2/15	許可された期間
方法	網猟・わな猟・銃猟 (環境省令で定められた法定猟法)	すべての方法 (ただし危険猟法等については制限あり)

4 失敗事例から学ぶ注意点

① 侵入防止柵の設置場所は適切ですか？

✕ 電気柵を防草シートやコンクリートの上に設置しないでください。

失敗事例

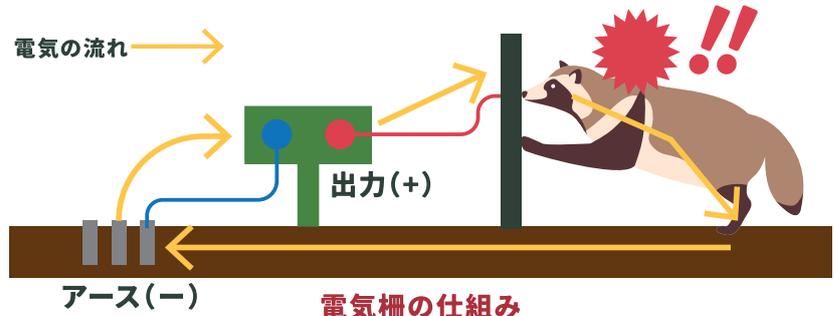


○ 土や、電気柵専用の防草シートの上に設置しましょう。

改善事例



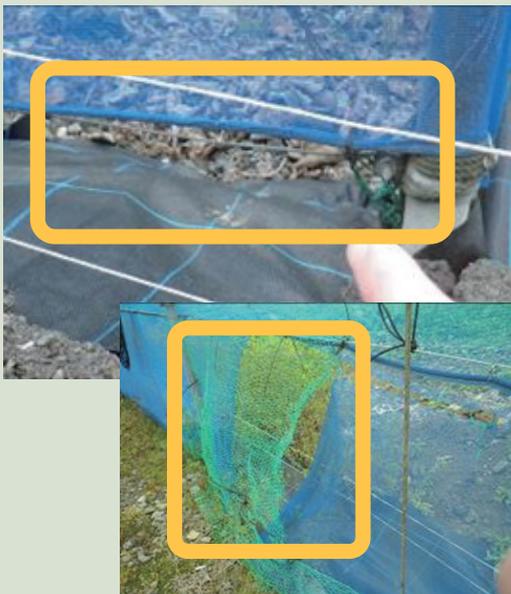
電気柵は、中型の野生動物が柵の通電部分(+)に触れると、電流が動物の脚を流れて地面に流れ、アース(-)に戻ることで感電させる仕組みです。設置後、電圧チェッカーで4000V以上あるか測定しましょう。



② ネット等に隙間はありませんか？

✕ ネットの下側や補修場所に隙間は野生獣の侵入口になります。

失敗事例



○ パイプやUピンで固定するか隙間が無いようにネットを張りましょう。

改善事例

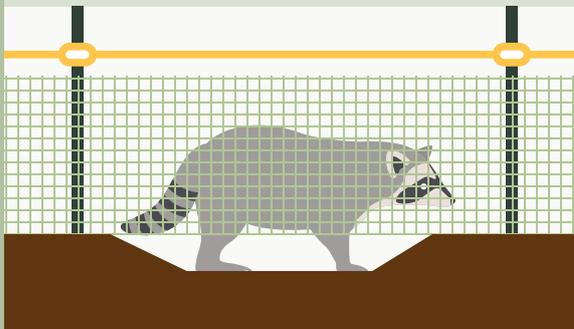


③ 地面のへこみ場所の対策はしていますか？



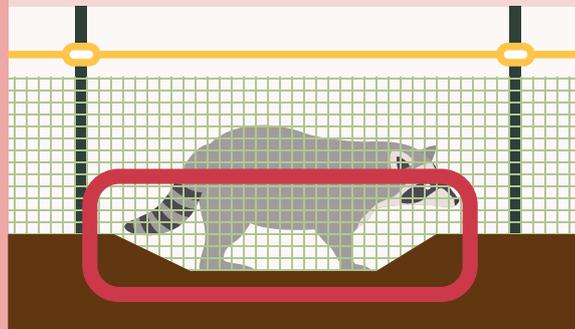
地面のへこみや傾斜部の下にできる隙間の対策をしないと野生獣の侵入口となります。

失敗事例



基本は、余った資材等で物理的に隙間を埋める・スカート部がある場合は、Uピンで固定する等で対策しましょう。

改善事例

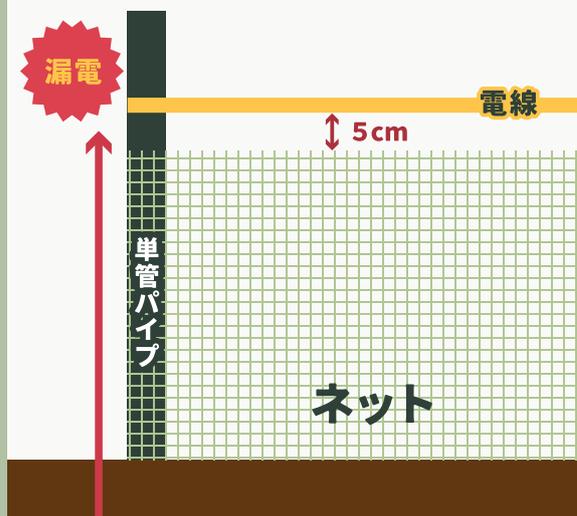


④ 単管パイプ等へ電線が触れていませんか？



楽落くん方式で果樹棚の周りに設置する際、ネットが単管パイプと接するように張られたため、併せて張った電線が四隅の単管パイプと触れていた。対策として絶縁テープやホース等の厚みのある資材で絶縁を図ったが、漏電を防げなかった。

失敗事例

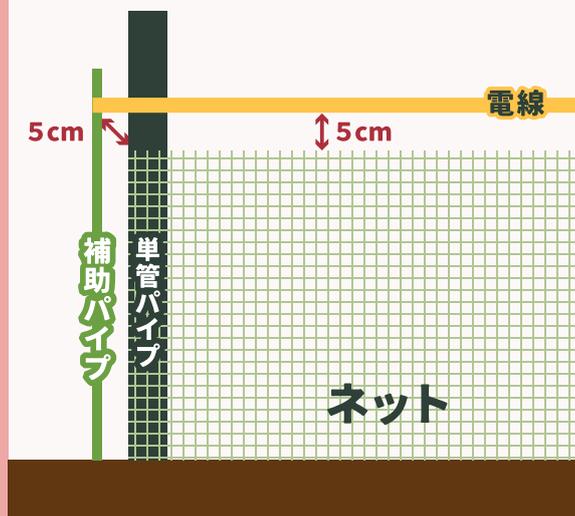


単管パイプは電気を通すため、電線と直接触れると漏電します！



ネットと電線の距離を5cmで維持したまま、四隅の電線を単管パイプから離すように工夫して設置しましょう。

改善事例



5 問い合わせ先・参考文献



楽落くん方式の侵入防止柵設置方法については、
右記動画をご覧ください。



【獣害対策】中型野生獣から農作物を守ろう
～侵入防止柵の設置方法～

問い合わせ先

名称	住所	電話番号
中型野生獣による農作物被害対策について		
農業振興事務所振興課	立川市錦町3-12-11	042-548-5053
区部農業改良普及センター	江戸川区鹿骨1-15-22	03-3678-5905
城北分室	練馬区豊玉北4-7-6	03-5946-9326
城南分室	世田谷区南烏山4-9-2ひのき烏山ビル2階	03-5969-9781
西多摩農業改良普及センター	青梅市新町6-7-1	0428-31-2374
南多摩農業改良普及センター	八王子市南大沢2-2 パオレビル6階	042-674-5971
北多摩農業改良普及センター	東村山市本町1-23-9(東京都小平合同庁舎(仮庁舎)2階)	042-391-1100
農林水産部食料安全課	新宿区西新宿2-8-1	03-5320-4882
野生鳥獣の捕獲について		
多摩環境事務所自然環境課	立川市錦町4-6-3	042-521-2948
環境局自然環境部計画課	新宿区西新宿2-8-1	03-5388-3505

参考文献

- 野生鳥獣被害防止マニュアル【中型獣類編】—令和6年3月 農林水産省
- 野生鳥獣被害防止マニュアル—アライグマ、ハクビシン、タヌキ、アナグマ—(中型獣類編). 農林水産省農村振興局.平成30年3月 農林水産省
- 野生鳥獣被害防止マニュアル—ハクビシン—平成20年3月 農林水産省
- アライグマ防除の手引き 平成26年3月改訂 環境省
- 鳥獣の生態と被害対策 埼玉県HP
- 東京都レッドデータブック2023-東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版-. 東京都環境局自然環境部(編集・発行).令和5年3月.
- 侵入生物データベース. 国立研究開発法人 国立環境研究所ホームページ.(参照 令和6年10月)
- 藤井猛.多摩川中流域河川敷におけるニホンイタチの食性の季節的变化.哺乳類科学.1998,38(1):1-8
- 増補改訂フィールドベスト図鑑 日本の哺乳類.小宮輝之(著).学研教育出版,2010,2,4

監修、写真、イラスト提供

野生生物研究所ネイチャーステーション 代表 古谷 益朗

※本マニュアルは公益財団法人東京都農林水産振興財団東京都農林総合研究センター緑化森林科、東京都環境局自然環境部計画課、農業振興事務所振興課、各農業改良普及センターの協力をいただき、制作しています。



発行：東京都産業労働局 農林水産部 食料安全課
〒163-8001 東京都新宿区西新宿2丁目8番1号 TEL:03-5320-4882

登録番号7(158)

石油系溶剤を含まないインキ
を使用しています。

リサイクル適性 **A**

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。